「思春期保健普及事業」

佐藤愛
青森県立保健大学　看護学科

Ⅰ．事業の背景

あおもり思春期研究会は、厚生労働省の科学研究補助金による「10代の女性の人工妊娠中絶にむけての支援モデルの構築」（研究代表者：元学長、新道幸恵）の研究過程において、思春期保健の関係機関や関係者と大学教員が連携・共同し、思春期保健に関する問題の把握や性教育を普及・推進していくための中核的な組織として平成18年に設立された。会には本学教員が所属し中心的な役割をもって継続的に活動している。今回、思春期保健活動を行う関係者間の交流を促進する目的で公募型地域連携事業に申請し採択されたため事業概要について報告する。

Ⅱ．目的

思春期保健に携わる学校関係者や保護者、保健医療従事者のための情報提供活動を行うとともに、関係者間の交流を促進する。

Ⅲ．参加者

思春期保健に携わる学校関係者や保護者、保健医療従事者、一般市民

Ⅳ．事業の内容

1．思春期保健活動に携わる関係者および一般市民を対象とした市民公開講座の開催
2．思春期保健関係者を対象とした勉強会の開催

Ⅴ．事業の効果

1．市民公開講座（7月5日開催、参加者41名）

市民公開講座では、佐保美奈子氏（大阪府立大学看護学研究科准教授）を講師に迎え「助産師からみた家庭・学校における性に関する指導について」のテーマで講演を実施した。佐保氏はこれまでに身体的障がいのある子どものセクシュアリティ支援やデートバイオレンス予防教育プログラムの開発など多くの研究に携わるとともに、地域での中・高校生への性教育活動も積極的に行っている。

今回、最新の情報を持ち、先進的に活動している佐保氏を招聘し講演を開催できたことは、青森県内で思春期保健活動を実践する地域住民や学生にとって大変貴重な機会であったと考える。講演では中・高校生に伝えるべき性に関する内容について、実践レベルでの具体的な方法が示されていたため、わかりやすい内容であったと大変好評であった。また意見交換ではセクシャルマイノリティの生徒に対する支援のあり方について活発なディスカッションが行われた。本学の学生も9名の参加があり、様々な職種や学生が一堂に会して意見を交わすことにより、有意義な交流ができたと考える。

写真1　市民公開講座の様子

2．勉強会（11 月 25 日開催、参加者 14 名）

勉強会では、小山内世喜子氏（青森県男女共同参画センター副館長）を講師に迎え「アピオあおもりの活動と思春期からの男女共同参画の理解と促進～将来を見通した自己形成～」のテーマで講演を実施した。小山内氏は男女共同参画社会づくりに向けての市民活動や講演等を積極的に行っている。

今回は、アピオあおもりの設立趣旨や活動内容、男女共同参画における現状と課題について、また特に思春期男女に向けた活動とメッセージについて講演を頂いた。小山内氏の「活動を浸透させていくためには人と人とのつながりが大事である」という言葉は、参加者がそれぞれの場で活動を継続していく上での励みとなった。今回の講演によりアピオあおもりの活動について理解を深めることができたとともに、それぞれの場で活動を行う参加者たちのエンパワーメントとなったと考える。

写真２　勉強会の様子

中・高校生を対象とした性教育活動を展開していく上で大人たちの連携・協力は不可欠であるが、より効果的な実践をしていくことは長年の課題である。今回講演や勉強会の開催を通して、保健大学における思春期保健活動の PR ができたとともに、参加者への最新の知識提供、参加者同士の交流・意見交換およびエンパワーメントの場を設けることができ、参加者それぞれの今後の活動の支援につながったのではないかと考える。